

流域情報

## あらかわ



発行●NPO法人荒川流域ネットワーク編集委員会／編集人●鈴木勝行  
 住所●358-0046埼玉県入間市南峯400-4 FAX04-2936-4120  
 E-mail●info@ara-river-net.jp ホームページ●http://www.ara-river-net.jp/



深谷市花園橋から見た上流部。右が「荒川」地区。左に川の博物館が見える。  
 写真提供・木崎芳雄氏(入間市写真連盟事務局長)

## CONTENTS

- ① 清流を蘇らせる! 高麗川投網大会
  - ② Network News  
荒川流域一斉水質調査  
秩父の環境を考える会が  
荒川の自然環境の陳情書を提出
  - ③ 流域環境情報をネット上に構築  
Network Information  
流域一斉水質調査  
源流シンポジウムin小菅  
自然再生通信
  - ④ 森づくりの現場から Vol.2  
群馬県の森林(前半)
  - ⑤ あらかわ歴史探訪 Vol.2  
荒川の名前発祥の地? 深谷市荒川
  - ⑦ ミズガキ紹介  
柴又の投網名人の姉弟  
流域環境に取り組む若者たち  
埼玉県立滑川総合高校環境部  
川虫の話 Vol.2「カゲロウ」
  - ⑧ 流域活動団体の  
イベント・カレンダー  
2006年10~12月
- いきものの道・魚道と  
エコプライド通信は休載。

## 清流を蘇らせる! 高麗川投網大会

荒川流域ネットワーク代表理事 恵小百合

何年か後には、『お母さんは、川におかずをとりに行ってきますからね。』『わあーい、今日の晩御飯はアユの塩焼きかヤマメのてんぷらだね!!』という会話が実現するようにしましょう。(真剣: お父さんでもよいですがアユの食事時に川に行ければ誰でもよい)

特定非営利活動法人荒川流域ネットワークのミッションの第1番目は、『清流を蘇らせよう』です。清流を蘇らせるためには、水をきれいにすること、その川を源流から海まで1本の川に繋げることです。そうすると、海で育ったアユやたくさんの生き物たちが上下

流を往き来できます。そして、流域に住む人々は天然もののアユを捕りに行って、その日の家族が食べられる分だけを捕ると帰ってきます。誰かが琵琶湖やよその流域のDNAをもった稚魚を放流したものでなく、天然のアユが目の前の川で産卵し、川を下って東京湾へ行って育って戻ってくるのでしたら、漁業権も入漁料もいりません。そのときに、登場するのが昔から鳴らしていた(今から鳴らす)投網の腕。

2006年8月20日に日高の投網の名人関根文明さんと江戸川の投網3人娘と投網少年、そしてその育ての親で師匠



葛飾・柴又から実習指導にきてくれた投網3人娘の一人、高校1年生野内祐里亜さん

元祖ミズガキの君塚芳輝さんが、高麗川で投網の講習をしてくださいました。

投網用の魚網を作る「さがみや」という鶯谷のお店の技術者も、投網を手入れしたり打ったりする技術も十分に日常的なものの一つだったのですが、魚類が減ってきたことと、日常的に投網で取るほど魚がいない、いても食べられない、いても漁業権が設定されて

いて、入漁料が高い、などの理由で、投網そのものさえ忘れられようとしています。

皆さんの水辺のイメージ、投網の経験、実際に魚を捕って食べるという体験、そして、捕り過ぎないことの意味の理解とエコプライドが清流を取り戻させるのです。アユの産卵したくなる川の形と石ころの大きさ、水の質など、いざ清流が蘇り、魚が川にあふれるようになったときに、投網の腕がにぶらないように、今から、芝生やブルーシートの上で練習をしておきましょう。

あなたの清流観と、みんなの清流観はそれぞれ違うでしょう。私は、入学直後の学生に「あなたの環境歴」を書い



参加者に投網の打ち方を解説する君塚氏

てもらっています。生まれてから17年間くらいの間に、接したことのある環境やそこでの体験、自分の行動と環境観を年表にして思い出してもらおうのです。それぞれの皆さんの人生の年数分、多様な直接的な環境体験をしたり、映像や画像で感動する環境の情報に接したことがあると思います。こうした直接・間接的な環境体験が一人ひとりの環境観を熟成させています。清流といっても人によりイメージが異なります。荒川を清流にするためには、どのような姿にすればよいのか、流域人口930万人のすべてが同じ川のイメージを持つことにはなりません、それぞれの清流センスで目の前の川を蘇らせるとともに、海から源流まで、あるいは、各支流を繋ぐことのできる流域づくりを共通のミッションにしたいものです。

見た目は透明でも魚が死んでしまう物質が溶け込んでいる水と、かき混ぜると泥が混ざっていても、しばらくすると泥が沈殿し、その上澄みが飲めるほど澄んで魚が生きている水では、その水質は違います。投網で魚を捕るの



地元日高の投網の名人関根さん。この日アユ3匹を捕獲した。関根さんは漁連の組合員でもある。

は、食べるためだけではなく、生物指標としての生き物の調査のためにも今から必要なことなのです。

清流とは、水質、水量、水温、味、流れの滯筋（みおすじ）、景観と環境、生き物、日影や隠れ場所、産卵場所の総体としての水辺環境の魅力があるかどうかでしょうか？、そして、何よりも、それぞれの皆さんが持っている、清流のイメージ、小さいころから築き上げてきた清流についての環境観に照らしてみ、これぞ清流だ！といえる何かがあったとき、ほんと、この清流を次世代に遺したい、と思い、次世代にとっての原風景を今つくっておかなくてはならないと行動に立ち上げられる力を持っているのかもしれない。

## NetWork News 1 今年も6月4日に荒川流域の377ポイントで水質調査を実施。

日時●2006年6月4日(日)  
場所●荒川本流及びその支流

今年度も48の団体と3名の個人が参加して、荒川流域377地点での水質調査を実施した。昨年の参加は42団体・個人で、調査地点は348。今年は6団体、29ポイント参加団体と調査地点が増え

た。昨年同様全国一斉のCODのみの調査も同時に実施した。

当ネットワークとしては、現在全国一斉調査の報告のためのまとめと荒川流域の水質調査マップ作成に向けての数値の取りまとめを行っているところである。今後、各地域ごとの水質の状

況及び変化を参加団体からの報告をもとに作成する予定。



## NetWork News 2 秩父の環境を考える会が「荒川の生態系の維持改善についての陳情書」を県に提出。

秩父の環境を考える会が呼びかけ団体となり、「荒川の生態系を維持改善するための施策について（源流域から海まで、魚の行き交う川づくりを目指した施策の実施）」の陳情書を県に提出する予定。陳情書提出にあたり、流域の5～6団体に賛同を募っている（9月15日現在）。荒川流域ネットワークも賛同団体になっている。

埼玉県は現在、平成19～23年の5年間の在るべき姿を描いた「埼玉県5か年計画・ゆとりとチャンス埼玉プラン大綱(案)」を作成中。その大綱の中に、荒川の自然環境についての課題解決を盛り込むことを求めるもの。陳情内容は、以下の2点である。

① 荒川の生態系を遮断する中流域の玉淀ダムをはじめ、幾つかの堰の再検

討と魚道等の設置。

② 魚の棲める川づくりを目指した河床岩盤化対策（源流域の4つのダムの堆砂礫活用策の具体化）。

秩父の環境を考える会は、この陳情書と併行して、流域の多くの環境団体が考えている水環境改善への具体的提案も大綱へ反映してもらう必要があると考え、上記以外の水環境に対する要望も各団体から提出してもらい取りまとめた上、県知事に提出しようと準備している。





## GIS(地理情報システム)を用いた環境情報共有システムをネット上で構築・仮公開

荒川流域ネットワークに対する2006 マイクロソフト助成事業

立正大学地球環境科学部とのコラボレーションにより進められている2006年マイクロソフト助成事業は、ブログによる対話の機能や団体の催事案内の登録機能など計画の主要な機能の開発が進められている。

地域をベースにした市民活動にもインターネットの持つ利便性を活かしていくために、地理情報を活用しようという今回の取り組みは、これまでに開発を続けてきた一斉水質調査結果をネット上の地図に表示する荒川流域環境

マップをさらに機能強化し、サイトを訪れた人々が単に情報を入力するだけでなく、情報発信者にもなり得る。さらにはネット上で離れた場所にいる人が自由に対話できるようにしようというものだ。

現在、試作版がネット上に仮公開され、より使いやすい仕組みのあり方を検討しているが、近々、休止中のホームページを含め公開の予定である。



### 第3回みずかけ“サ”論

## 「流域経営から見た一本の川『荒川』への鍵」をテーマに日高市で開催

日時●2006年11月26日(日)  
13:00～16:00

場所●日高市生涯学習センター

荒川流域ネットワークが本年度2回開催してきた「みずかけ“サ”論」の

第3回を日高市で開催する。

今回のお題は「流域経営から見た一本の川『荒川』への鍵」。荒川をひとつにしていくためにはどんな仕組みが必要か、「流域協議会へのプログラム」

「流域の魚道や堰、ダムの課題と対策」「荒川太郎右衛門地区自然再生協議会」など荒川流域の抱える諸課題を解決するための仕組みについて参加者同士が自由に話し合う。議論を深めるための討議の場としてこの催しとは別に当日に向け、ブログを用いた討論の場を準備し、“サ”論終了後も継続的な話し合いを予定している。



## 第7回全国源流シンポジウム「森と水と源流再生」を山梨県小菅村で開催

日時●2006年10月28日(土)・29日(日)  
場所●山梨県小菅村中央公民館および多摩川現流域

今年は、多摩川上流で源流シンポジウムが行われる。開催スケジュールは以下の通り。

第1日目28日11時開会

●源流サミット：全国各地の源流の村長や町長からの発言・メッセージ(コーディネーター 恵 小百合)

●記念講演「流域における源流の役割」  
東京大学名誉教授 高橋 裕

●基調提案「今なぜ源流大学か」  
東京農業大学教授 宮林茂幸

●パネルディスカッション／コーディネーター 山道省三(NPO法人全国水環境交流会)

●「源流の魅力とパワーの不思議」  
中村文明(NPO法人全国源流ネットワーク代表)

第2日目29日「多摩川源流の魅力を探る体験型イベント」

●コース1▶多摩川の最初の一滴・水干探訪

●コース2▶松姫峠・松鶴のブナ探訪

●コース3▶源流の里散策・食文化体験  
宿泊費9000円(1泊3食)初日の昼食は持参 JR奥多摩駅よりバス送迎あり。  
28日午前10時JR奥多摩駅集合。

申し込み締め切りは、10月20日。詳しくは、第7回全国源流シンポジウム実行委員会事務局 多摩川源流研究所  
TEL0428-87-7055 FAX0428-87-7057まで。

## 自然再生通信

### 協議会の進捗状況と抱える課題

## 自然再生推進法—問われる市民の資質

川村ヒサオ(荒川太郎右衛門地区自然再生協議会委員)

荒川太郎右衛門地区自然再生は平成15年に制定された自然再生推進法に基づいて実施される公共事業。といっても、従来の公共事業のように国や自治体が単独で行う事業ではない。

太郎右衛門の場合は、河川管理者である国交省が主務官庁となり、県、地元自治体、そして市民団体・個人などが協議会を形成し、それぞれが事業の実施者として自然再生をはかることに

なる。そういう意味で本来、行政が実施する事業に対して市民が注文をつけたり、批判をするという性格の事業ではない。

再生協議会では、この夏、参加する市民や市民団体に事業実施者としてどのような事業の推進が可能かというアンケートが実施された。これまでの協議が、とすれば河川管理者である国交省が再生事業として行う工事の概要

## ●太郎右衛門自然再生協議会

について市民が批判したり、責任の所在を追及するという協議に傾きがちであったものが、行政、市民ともに実施可能な事業の内容を持ち寄ることで全体像を描き出そうという本来の姿に戻るきっかけになりそうだ。

もちろん、市民側協議委員の大半は事業推進のための資金調達力があるわけではない。したがって、ボランティアによる管理など限られた分野での事業実施者としての参加の姿勢を示す必要がある。その視点で再生事業の全体を眺め、責任を持てる事業内容を提示する能力が市民団体に求められている。

# 県・森林組合・ボランティア団体が、**「どうい う仕組みで動くか、**ということ**を大事にしたい**

群馬県での「木遣い」及び森林保全に関わり、「群馬ビジョン」の計画作成に座長として活躍されてきた内山節氏にこれからの森林と山間地のあり方についてお聞きした。

## ——群馬県における森林保全の取り組みの特徴は

群馬県は21世紀に入った頃から活動する団体が豊富に存在します。400団体のNPO法人が活動しており、群馬県自体は県民が200万人ほどしかいないので、人口比でみると日本で一番多いのではないかと思う。

自然環境に関する団体も多い。人口比からすると8割の人が都市部に住んでいる県ですが、周辺に山地が存在するので、森林の保全が重要な課題。群

薪と落ち葉の利用がなくなっているんで、**「欲を言えば、今から50年・100年前に戻って、薪や落ち葉を使ったりすればいいんですが、8割の人が都市で暮らしている現状では困難です。」**

新しい方法としてペレットストーブなどバイオマスの活用などの研究なども行っていますが、今のところ大量に使うということまでできていない。現状の生活のあり方を全て追認したのでは改革にならないが、全く無視しては実際の動きを起こすことは難しいと思っています。

## ——群馬県で現在行われている里山保全の進め方は

里山の方が荒れていることは確かで、小動物とか下層植生の保全に取り組ん



「ぐんま昆虫の森」の園内風景

その他、各地で里山整備事業を行っているボランティアには、必要最低限ぐらいの経費に対する補助金が出るようになっています。

群馬県の森林はそんなに荒廃している訳ではなく、**「欲を言えば、もう少し管理した方がいい、という状態です。」**

伊香保にある「県民の森」では、半分は間伐をして散策ができる明るい森として整備し、残りの半分はそのままにしています。

そこでは、常駐している職員がボランティアセンターのような宿泊施設を作り、来た人が宿泊しながら整備作業をしてもらい、時間を掛けて美しい森にしていくことにしている。事前に申し込んでもらい、指導が必要であれば、職員が教えることになっています。

## ——森林についての群馬県の将来ビジョン作成は

5年ほど前に前橋で森林ボランティアの全国大会が開催され、本来ならボランティア団体が中心で主催するが普通だが、群馬県では県も一緒に共催しました。そのとき、「群馬県ビジョン」を作ることになり、行政は法律に抵触することはできないので、形はボランティア団体側が出すことにしました。とくに森林の問題は所有権という憲法上の問題に踏み込まないとビジョンが作れないという面がありますから。

例えば、保安林法などでも事実上所有権制限・利用権制限をしている。そうした法律をうまく解釈しながら、制限を加えていくことは、現在でも行政でもできますが、今の森林の所有のあり方を考え直すといういうような長期的で大胆なビジョン作りは行政ではできず、市民の立場でなければできない。県としてはそれを受けて、施策の中で活かせるものは活かしていくということになったわけです。(以下次号)



## 森づくりの現場から

Vol.2

# 群馬県の森林《前編》

インタビュー▶内山節氏

立教大学異文化コミュニケーション研究科教授  
NPO法人森づくりフォーラム代表理事

馬県の森林ボランティア団体の中には森林組合の職員などプロの人がいる場合もあり、プロの人たちとの連携が比較的良好にできているということが一つの特徴といえます。森林での協働作業やイベントなどで連携した活動が行われています。

森林をどうするという前に、県と森林組合とボランティア団体などが、**「どうい  
う仕組みで動くか、**ということ**を大事にしたい**。群馬県は国有林が多いので、各地の森林管理所など国の森林関係機関とも連携をとっています。

**「最良の森、とはどういう森かという**ことについては、まだよく分からないところが多い。昆虫など小動物が少なくなっているということは言えるんですが、生物多様性を確保しようとすると、オオカミがいなくなってしまう。シカの害が多くなってしま

でいるボランティア団体もたくさんあります。県も、標本ではなく生きた昆虫を見に行ける「ぐんま昆虫の森」という48畝の里山環境のフィールドを桐生市に開設し、その中に「昆虫観察館」という施設も作りました。「昆虫たちがたくさん暮らせる里山」をコンセプトにコアの部分は県が作り、周囲はボランティアが里山公園のように作っていくという手法をとり、一つのモデル事業になっています。



「ぐんま昆虫の森」の園内マップ



あらかわ  
歴史探訪 Vol.2

『荒川』の名前発祥の地!?  
深谷市(旧花園町)荒川を訪ねる (前編)

古代、荒川郷には製鉄技術を持った  
馬と関わりが深い人々が暮らしていた

荒川はいつ頃からなぜ「あらかわ」と呼ばれるようになったのか。そんな疑問に対する手懸かりを求めて、昔の名を武蔵国榛沢郡荒川郷といわれた現在の深谷市(旧花園町)荒川を訪れた。

一般に、川の名前が源流から河口まで同じ名前と呼ばれるようになるのは明治以降だ。荒川については、明治以前は上流から真の沢・入川・大川・荒川・外川・戸田川・隅田川(浅草川・大川)とそれぞれの地域で呼ばれていた。

江戸時代初期の荒川の瀬替え以降は熊谷から下流の新しい流路を「新川」と呼ぶこともあったようだ。また、江戸時代後期には大滝村から隅田川までを荒川と呼ぶこともあったようである。

幾つもの川の名前の中で、昔から「荒川」と呼ばれていた地域は寄居から熊谷周辺で、川の名前と関わりがあると思われる深谷市の荒川もこの地域の左岸にある。ちなみに荒川区は昭和7年に、また秩父市となった旧荒川村は昭和18年にそれぞれ名前を採用している。

荒川と関係があるかどうかは不明だが、元荒川と利根川との間の加須市には、鎌倉時代に荒川太郎が堀ノ内に館を構えたという伝承があり、昔はその地も荒川村と呼ばれていたという。現在の加須市阿良川である。

今回訪問した深谷市荒川は、関越自動車道の花園インターのそばにある。

荒川では、深谷市教育委員会花園事務所の森下昌史郎氏が歴史と地勢について、詳しく解説をしてくれた。

荒川地区は荒川の扇状地にあたり、永年の間に川が運んできた土や砂礫が堆積してできた土地であるという。扇状地といっても、荒川は村落の20分ほど低いところを流れており、荒川の水を使って広く水田が営まれるようになったのは、玉淀ダムから水を引いてこれるようになってからだという。

旧花園町からは、縄文遺跡が発掘されており、縄文時代前期、紀元前7000年頃から人が住んでいたと考えられている。

荒川の河川敷から少し上がった花園インターの南側に黒田古墳群がある。6世紀後半の古墳で、そこからくつわや鏡など乗馬で使う鉄製品が出土しており、馬に関わりのある人々が住んでいたと推測されている。また、その近くに「鉄糞」や「鍛冶谷戸」といった



▲荒川の側にある黒田古墳群の2号墳。乗馬用の鉄製品が発掘されている。



深谷市荒川



▲荒川の段丘上に広がる荒川郷川端地区。青石塔婆や持田家などの歴史的遺産が残っている。

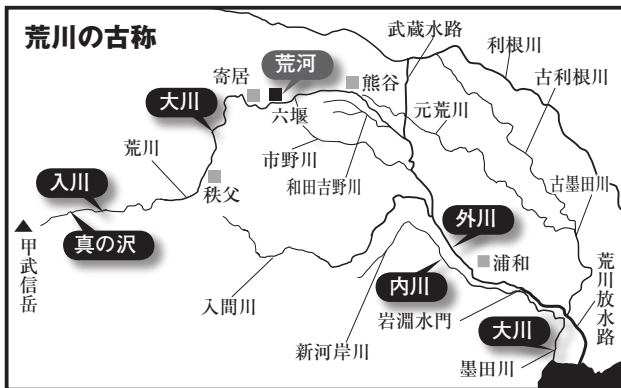


▲鎌倉街道の渡河点。川の中央に川越岩が見える。

地名が残り、古代の製鉄遺跡も発見されていることから、この地で古くから製鉄が行われていたと考えられている。

鎌倉時代、兄玉と岡部本郷から川越方面に行く鎌倉街道上道と川越兄玉往還の渡河点として、交通の要所になっていた。現在の花園橋の100mほど下流にあたる。当時は渡し舟で荒川を対岸に渡ったようである。

渡河点の側には、近くの井戸の跡から出土した宝篋印塔や45基の板石塔婆などの鎌倉時代の石の遺物を見ることができる。(以下次号)



吉川園男著「荒川の風」さきたま出版より



## ミズガキ紹介

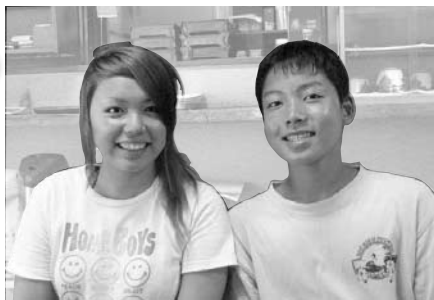
野内祐里亜さん(高校1年生)  
野内大輝くん(中学1年生)

魚道・淡水魚類専門家の君塚芳輝さんと一緒に魚類調査活動をしている、女子高生の野内祐里亜さんと弟の大輝くんにお話を聞いた。祐里亜さんは投網を打つ少女として、アウトドアの雑誌にも登場したことがあるそうだ。今回、当ネットワーク主催の投網大会にも講師として参加して初心者の人たちに実技指導もしてくれた。

祐里亜さんの話

——投網を始めたきっかけは、小学校5年生の時、家が東京柴又の江戸川にある矢切の渡しのそばにあり、そこで投網で魚類調査をしているのを見て、面白そうだったから。そこで調査をしていた君塚さんたちに投網の打ち方を教えてもらった。

その後、中学1年の時に自分で投網を購入し、現在も「自主生き物調査団」の活動として毎月江戸川で魚類調査を行っている。江戸川には、ハゼ、ヌマチチブ、ウナギ、アユ、マルタウグイなど50種類ほどの魚たちがいる。今は全ての魚の種類を識別できるようにな



り、江戸川の一年間の魚たちの変化も分かるようになった。

江戸川に行くと気になることは、川の周辺にゴミが多いこと。釣り針や天蚕糸も多く、釣りをする人もマナーを守って欲しいと思う。

これからも調査活動を続け、将来は生物調査などの仕事に就きたい。

大輝くんの話

——以前は少年野球をしていたけど、姉が投網をしているのを見て小学校4年生頃から一緒に参加するようになった。江戸川には、舟から投網を打つ「細川流」という流派がある。打ち方が違うので、これから挑戦してみたい。将来は環境に関する仕事に就きたい。

祐里亜さんも大輝くんも外見はごく普通の都会のお子さんだが、川に入って投網を打つ姿は川漁師のように高麗川の景色になじんで見えた。

お二人には、投網を通して知った川の魅力と課題を多くの人に知ってほしいという強い思いが感じられた。

## 川虫の話 Vol.2

### 3日間の命に全てを賭ける カゲロウ

川虫の御三家の一つで、儚い命の象徴のように語られることの多い。

世界では、約3000種、日本では100種類以上いるとされているが、まだ分かっていない仲間も多い。日本のカゲロウの多くは年2回世代を繰り返す、春から秋に成虫が見られるが、とくに5月に多いので、Mayflyともいわれる。

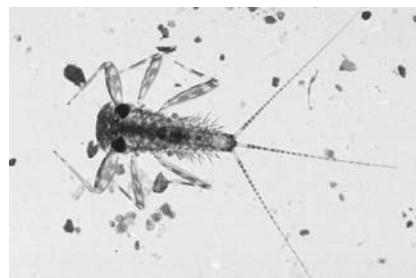
幼虫は、一部に尾が2本のものもいるが、多くは3本である。アシの爪は1本。エラは毛状か葉状で、腹部の横に5~7対ある。

多くは川の水のきれいな所に生息する。川の中では、早瀬の石の表面、淵の枯葉などの堆積物の隙間、砂に穴を掘って生息するものなどその生息環境は多様である。食性も石に付着したけい藻、デトリタス(川の汚れ)、他の川虫を食べるものなど様々で、その環境や食性に合わせて幼虫の形態も多様である。

幼虫から脱皮した後、亜成虫というものに1回なってそれからもう一度脱皮して成虫になる。成虫には口が無く、3日生きることはない。

雄は、夕方になると群れて飛び、羽化した雌が飛び込んでいくとすぐ交尾し、雌は川の中の石に卵を産んで命を終える。

砂の中で生息するオオシロカゲロウのように、9月頃一斉に羽化し車道に積もり、車のスリップ事故を起こすほど大発生するものもいる。原因は川底の環境の変化によるものではないかといわれている。



タニガワカゲロウの仲間

流域環境に  
取り組む  
若者たち  
第2回

### 環境のためにできること 取り組んできたオオムラサキの飼育・放蝶活動

市田 祥雄  
埼玉県立滑川総合高校  
環境部 部長



埼玉県立滑川総合高校環境部は、部員8名という少人数ではありますが、「楽しく、少しでも環境問題改善のために活動すること」を目標として、日々活動しています。

主な活動内容は、町内を流れる滑川、市野川の水質調査をはじめ、谷津田保全・農業体験を目的とした古代米の栽培、太陽光や風力などの自然エネルギーの活用、雨水を使ったベランダの水耕栽培システム(ビオトープ)作り、そして校門設置してある風力発電用風車の管理などです。

また、日本の国蝶であるオオムラサ

キの幼虫を冬に回収し、夏に放蝶する「オオムラサキ人工飼育プロジェクト」など活動にも試行錯誤をしながら、取り組んでいます。

このような活動をしていると、身近な場所でも楽しく分かりやすく、環境のことが学べます。これからも沢山の活動を取り入れ、エコ・ハイスクールを目指していきたいと思っています。



# ▶ 流域活動団体 ◀ EVENT INFORMATION

● ちょっと出かけてみませんか



イベントについてのお問い合わせは  
荒川流域ネットワーク事務所  
● TEL&FAX 04-2936-4120  
● E-mail: info@ara-river-net.jp  
\*連絡はできるだけ FAX か mail でお願いします。

📅…イベント   🌿…自然観察会   🛡️…保全活動   🧹…清掃活動   🎤…シンポジウム   📖…学習会

**🌿 秋の山野草教室** 秩父市

内 容 ● 秋の七草、秋の薬草を観察しながら園内を散策します。散策は、薬草コースと草花コースの2つに分かれて行います。

日 時 ● 2006年**10月1日**(日) 9:30～12:00  
 集合場所 ● 秩父ミュージックパーク薬用植物園  
 参加費 ● 無料  
 主 催 ● NPO法人秩父の環境を考える会  
 問合せ ● 0494-24-7104 (管理棟) / 0494-23-6386 (浅見)

**📅 浦山ダム見学と史蹟探訪** 秩父市

内 容 ● ダム事務所のバスで移動しながら、浦山ダムの見学と上流の浦山にある大日堂で催される珍しい獅子舞を見学します。

日 時 ● 2006年**10月28日**(土) 9:00～14:00  
 集合場所 ● 浦山ダム事務所前  
 参加費 ● 無料  
 主 催 ● NPO法人秩父の環境を考える会  
 問合せ ● 0494-23-5401 (児玉修司)

**🛡️ 稲刈り** 寄居町

内 容 ● カマでイネを刈り取り、束ねて干す作業を行う

日 時 ● 2006年**10月15日**(日) 午前10時～終わるまで  
 集合場所 ● 寄居町牟礼の体験田んぼ (寄居カントリーの近く)  
 参加費 ● 大人800円・子供(4才以上)400円 / 雨天 ● 中止  
 主 催 ● NPO法人むさし野里山研究所  
 問合せ ● 048-581-4540 (新井)  
 Eメール tombo2@d1.dion.ne.jp

**🧹 第9回 荒川の恵みと熊谷を考える集い** 熊谷市

内 容 ● みんなの善意による荒川の一斉ごみ拾いも、今年9回目を迎えます。あなたの手で荒川のごみを拾い、きれいな荒川を次の世代に引き継ぎましょう。

日 時 ● 2006年**11月12日**(土) 9:00～  
 雨天順延 **11月18日**(土)  
 集合場所 ● 荒川河川敷6カ所  
 主 催 ● 熊谷の環境を考える連絡協議会  
 問合せ ● 048-523-4581 熊環連事務局 (伊藤)

**📅 第7回東松山環境フェア** 東松山市

内 容 ● 本年度のテーマは「省エネってカッコいいね」。市民団体や事業所の取り組みを紹介。また「自然と人をつなぐ音楽の環」をテーマにした蚕小屋ライブ等のミニコンサートも開催されます。

日 時 ● 2006年**10月7日**(土) 10:00～14:30  
 会 場 ● 東松山市市民文化センター  
 主 催 ● 東松山市 / 共 催 ● 環境まちづくりパートナー  
 問合せ ● 0493-23-2221 (東松山市環境保全課)

**🌿 ふしぎワールド 秋の川虫** 熊谷市

内 容 ● 毎月荒川大麻生公園で開催している子どもから大人まで楽しめる「わくわく野あそび隊2006」の10月イベント。

日 時 ● 2006年**10月15日**(日) 10:00～12:00  
 集合場所 ● 荒川大麻生公園 多目的広場駐車場  
 参加費 ● 大人200円・子供(小学生以下)100円  
 主 催 ● 公園指定管理者(財)埼玉県生態系保護協会  
 問合せ ● 048-645-0570 (埼玉県生態系保護協会)

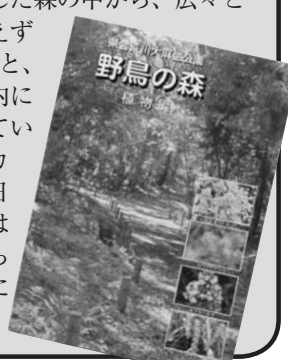
**📅 自然で染めよう** 青梅市

内 容 ● 今回は、秋ということで、栗やどんぐりなどで草木染めに挑戦！会員の塩野圭子さんが指導します。

日 時 ● 2006年**9月30日**(土) 9:00～12:00  
 会 場 ● 青梅市立大門市民センター  
 参加費 ● 600円  
 主 催 ● 霞川くらしの楽校  
 問合せ ● 0428-31-7279 (河内)

熊谷の環境を考える連絡協議会が  
**野鳥の森ハンドブック《植物編》**を作成

熊環連は、「県営荒川大麻生公園 野鳥の森」のハンドブック(植物編)を完成させた。公園内の植物を、より詳しく、より多くの人に知ってもらおうと、約200種類の植物を四季ごとに分類して、カラー写真と簡単な説明を入れた冊子にした。荒川の河川敷に広がる野鳥の森は、鳥などが運んでできた純粋の自然林。鬱蒼とした森の中から、広々とした荒川の河川敷まで、野鳥のさえずりを聞きながら遊歩道を散策すると、有に2時間はかかる。現在、公園内には、約400種類の植物が確認されている。その中には、県の絶滅危惧種カワラナデシコやカワラハハコなど日本古来の植物も見られる。熊環連はこのマップを手に公園を歩いてもらい、こうした植物たちを知るために役立てて欲しいと考えている。



**📅 自然で奏でよう** 青梅市

内 容 ● 田んぼと奥多摩の山々までみえる川のほとりで、竹などで簡単な楽器をつくって、演奏してみよう！

日 時 ● 2006年**11月11日**(土) 9:00～12:00  
 会 場 ● 青梅市今寺天皇塚水田  
 参加費 ● 300円  
 主 催 ● 霞川くらしの楽校  
 問合せ ● 0428-31-7279 (河内)

## N 「(仮称)川越市森林公園計画地」自然観察会 川越市

内 容 ● 「秋の彩りを探そう」をテーマに果実・ドングリなどを観察しながら秋の雑木林を歩きます。  
 準 備 ● 帽子、飲み物、ルーペ、図鑑など  
 日 時 ● 2006年10月22日(日) 9:30～12:00 (荒天中止)  
 集合場所 ● 川越南文化会館 (ジョイフル)  
 参加費 ● 100円 (保険代)  
 主 催 ● かわごえ環境ネット  
 問合せ ● 049-224-8811 (川越市環境政策課)

## N 板橋区立赤塚植物園と万葉・薬用園の見学会 川越市

内 容 ● 都内の植物園を訪ね、管理の実態を見聞する  
 準 備 ● 弁当、飲み物  
 日 時 ● 2006年10月31日(火) 9:00～18:00  
 集合場所 ● 川越駅西口 旧テニスコート前  
 参加費 ● 100円 (保険代)  
 主 催 ● かわごえ環境ネット  
 問合せ ● 049-224-8811 (川越市環境政策課)

## G 大谷川クリーン大作戦 鶴ヶ島市

内 容 ● 自然護岸が残る里川の大谷川。その環境を保全し、下流にゴミが流れるのを防ぐために清掃活動を行います。終了後、豚汁の会食もあります。  
 日 時 ● 2006年10月15日(日) 10:00～12:00  
 集合場所 ● 鶴ヶ島市民の森5号地 (南公民館東側)  
 参加費 ● 無料  
 主 催 ● つるがしま環境ネットワーク/後援 ● 鶴ヶ島市  
 問合せ ● 049-271-1111 鶴ヶ島市環境課

## S 第4回環境シンポジウム 鶴ヶ島市

内 容 ● 「7年後の鶴ヶ島子どもたちへの約束」をスローガンに進めてきた市民と事業者と行政の環境への取り組みと小学生たちのCO2削減への取り組みを報告。  
 日 時 ● 2006年11月5日(日) 13:00～16:00  
 集合場所 ● パイオニア総合(株) 研究所 (若葉駅から徒歩15分)  
 参加費 ● 無料  
 主 催 ● つるがしま環境ネットワーク/後援 ● 鶴ヶ島市  
 問合せ ● 049-271-1111 鶴ヶ島市環境課

## B 入間市環境ウォーキング 入間市

内 容 ● 3つのコースに分かれて入間を歩きます。ゴールの愛宕公園では芋煮会・交流会もあります。  
 日 時 ● 2006年11月19日(日) 雨天決行  
 コース ● ①入間川・霞川下流コース(5km) ②不老川下流まちなかコース(4km) ③加治丘陵コース(5.5km)  
 参加費 ● 200円 (当日徴収) / 定員 ● 先着200名  
 主 催 ● 入間市環境まちづくり会議  
 問合せ ● 04-2964-1111 (事務局・入間市環境課)

## G 上赤坂の森クリーン活動 狭山市

内 容 ● 不法投棄及び散乱ごみを拾いながら貴重な平地林の環境を保全します。終了後、芋煮汁が出ます。  
 日 時 ● 2006年11月11日(土) 9:00～11:00  
 予備日 11月12日(日)  
 集合場所 ● 堀兼・赤坂の森公園  
 参加費 ● 無料  
 主 催 ● 自然を守る狭山リサイクルの会ほか4団体  
 問合せ ● 04-2953-2482 (吉村)

## B ドングリを育てよう 上尾市

内 容 ● 丸山公園の湿地を守るために、自分たちで育てた苗木で雑木林を作りましょう。  
 日 時 ● 2006年10月14日(土) 9:00～12:00  
 集合場所 ● 上尾市丸山公園自然学習館  
 参加費 ● 100円 (保険料)  
 主 催 ● NPO法人荒川の自然を守る会  
 共 催 ● 上尾市環境保全団体連絡会  
 問合せ ● 048-726-1078 (菅間)

## B 第2回自然塾 ミツ又 遊んで学ぼう 上尾市

内 容 ● 「トンバス広場でいもほりとパン焼きをしよう」定例の観察会管理作業 |  
 日 時 ● 2006年11月18日(土) 9:30～12:00  
 集合場所 ● 西野橋 駐車場  
 参加費 ● 300円 (保険料)  
 主 催 ● NPO法人荒川の自然を守る会  
 問合せ ● 048-726-1078 (菅間)

## S 第4回お宝交流シンポジウム 志木市

### 川にかかわる自然と文化のまちづくり

内 容 ● 志木市内には3本(柳瀬川・新河岸川・荒川)の川が流れています。川にかかわる自然や文化を活かしたまちづくりとは?どんなことができるのか、具体的に考えてみます。  
 【基調講演】「川にかかわる自然と文化と流域経営 (仮題)」  
 講師 ● 恵 小百合 (江戸川大学社会学部教授)  
 【パネルディスカッション】川にかかわる自然や文化を活かしたまちづくりとは?  
 日 時 ● 2006年11月12日(日) 13時30分～16時30分  
 会 場 ● 志木市いろは遊学館 2F 「視聴覚室」(予定)  
 参加費 ● 500円  
 主 催 ● NPO法人エコシティ志木 / (財) 埼玉県生態系保護協会志木支部  
 後 催 ● 志木市・志木市教育委員会  
 問合せ ● 志木まるごと博物館” 河童のつづら”  
<http://homepage3.nifty.com/moh/kappa/otayori.html>

## B ドングリの森づくり さいたま市

内 容 ● 中央公園予定地の一角にドングリの苗を植え、ドングリの森づくりをする。  
 日 時 ● 2006年11月3日(金) 10:00～12:00  
 集合場所 ● ドングリの森予定地。高沼用水西縁に入ってすぐ、ガソリンスタンド裏 (与野本町駅徒歩5分)  
 参加費 ● 無料  
 主 催 ● 与野の水と緑を考える集い  
 問合せ ● 048-597-1030 (石井)

## 編集後記

2号は、長い原稿が多く、今回だけでは掲載できず、2つの記事は3号に後編を掲載することになりました。また、流域の団体の活動の紹介を充実させるために今回は2ページにしました。魚の道は今回休載しましたが、次回六堰頭首工について掲載する予定です。  
 高麗川の投網大会では、子どもの頃遊んだ「ヒッカケ」というツールを持って参加しましたが、水中メガネで急流を華麗に舞うアユの姿を見て、昔の感動が蘇ってきました。来年は是非皆さんもご参加下さい (鈴木)